

# CAMPUS NET

特集

## 石川県立看護大学大学院 過去 現在 未来



vol.42  
NOVEMBER  
2022

# 石川県立看護大学大学院 過去 現在 未来

石川県立看護大学大学院看護学研究科は2022年に開設18年目を迎えました。本大学院は、20年の節目を間近にした現在、科学技術の進歩とその応用、社会の発展に寄与すべく、多様性がもたらす豊かな環境で看護学に関する先進的・学際的諸研究のさらなる発展を目指しています。今回は、多年にわたり本大学院のために多大な貢献をされました先生方に「石川県立看護大学大学院で学ぶことの意義」についてお聞きしました。

## 座談会

成人看護学分野 牧野 智恵 教授

老年看護学分野 川島 和代 教授

聞き手/看護デザイン分野 小林 宏光 教授(研究科長)



### いち早くスタートした専門看護師コース

**小林** 本日は長年、大学院を牽引してくださったお二人の教授にお話をお聞きます。まずは、それぞれの専門分野での取り組みやこれまでの経緯を教えてください。

**牧野** 本学大学院で、がん看護専門看護師の教育課程とがんプロフェッショナル養成基盤推進プラン（がんプロ）を開始するためにお声かけいただき、それ以来16年間、大学院の成人看護学分野で教育研究に取り組んできました。

**川島** 本学に赴任した当初は看護デザイン分野の立ち上げに関わっていました。その後、老人看護専門看護師の教育課程も受け持つことになりました。

**小林** お二人ともCNS（専門看護師）コースを担当されています。大学院におけるCNS教育の位置づけとはどのようなものだとお考えでしょうか。

**牧野** 看護の現場ではジェネラリストだけでは改善できない問題が出てきます。そのときにCNSがスペシャリストとしての実践力や知識を有効に発揮することで、薬剤師など多職種も巻き込んで、患者さんへのケアを向上させていくことができます。結果的にはその病院の医療の質の向上にもつながる、かけがえのない役割です。

**川島** 老年看護の分野では、高齢化が進み、人口や世帯の構成が変わり、高齢者を支える家庭や地域の基盤が変化してきています。新たな課題にもしっかりと向き合えるCNSたちが、その方にとってベストな状態をつくることを考えて活動しています。



牧野 智恵 教授

地域の医療を変えていく、あるいは高齢者との生活を変えていく、そういう人を育てるのは学部の授業時間だけでは限界があります。多くの事例を集積しながら、自分たちの看護を振り返ることで、次への提言ができる力を身に付けるためには、大学院の学修が重要だと思います。

**小林** 本学は学部一期生が卒業する2004年に大学



川島 和代 教授

院博士前期課程を開設し、当初からCNSコースも設置しました。北陸ではもっとも早い時期での開設となります。それぞれの分野でリーダー的な立場になっている方も出てきていますよね。

**牧野** 師長や副看護部長となって活躍している方や訪問看護ステーションを立ち上げた方もいます。まだ若くスタッフナースとして働いている人もいますが、現場を取りまとめる頼られる存在になっています。一方で、現場で活かせるより深い知識を学びたいと60代で大学院の扉を叩いた方もいます。

**川島** 現場を変えていくだけでなく、CNSの活躍により、在宅復帰率が高まったり、入院の期間が早まったり、そういうエビデンスを積み重ねることで、(CNSの配置に)診療報酬の加算ができる体制ができたという効果もあります。

**牧野** CNSの役割のひとつに教育があります。修了生の中で教育に向いていると感じた人には、声をかけることもあります。実際に本学で教員として活躍している修了生も何人かいますね。

**川島** 現場で力をつけて大学にもどってくる方もいますし、大学と修了生が身近でいろいろ交流できる、そんな機会も増やしていけたらいいなと思います。

**小林** 実務の世界と学問の世界は一方通行になることが多いなかで、行き来がかなり自由なところは看護学のよいところですね。

### 研究コースも看護の向上へのアプローチ

**小林** 本学の大学院には前期課程にも研究コースがあり、その上に後期課程もあるわけです。もう一つの大学院の柱として研究コースの位置づけについても伺います。

**牧野** 博士後期課程の教育も本学の使命ですので、こちらも取り組んできました。後期課程の学生の多くは研究職を志向しています。担当教授の研究内容に関心をもった人もいますが、こういうテーマでやりたいからこの先生の下で学びたいという選択もあります。私はどちらかというと、学生がやりたいこと、深めたいことを尊重したいと思って一緒に学んでいきました。

**川島** 前期課程の研究コースに進んだ方は、現場を変えていく力を高めることに、一生懸命、取り組んでおられました。後期課程で学ぶ方は、次の世代を育てるという目的意識が高いので、計画的に研究するという点で優れた方が多かったと思いますし、

一緒に研究することが私自身もたいへん面白かったです。教員も大学院生と一緒に研究したり、議論したりすることで、リフレッシュしたり、自分たちも活性化できるところがあると思いました。

**小林** 研究コースを選ぶということは、一見、臨床を離れて患者さんから遠くなるようにみえるかもしれませんが、ここで研究したことが臨床の現場でのケアに繋がっていくこともあります。患者さんにより看護を提供するという最終的な目的は同じであっても、そこまでのアプローチは複数あります。現場から少し離れて、研究を進める技術やエビデンスを積み上げることを重視するのが研究コースの位置づけになるかと思います。さらに視野を広げて博士後期課程へ進むことも選択肢に入れていただければ嬉しいですね。

**牧野** 私自身が修士課程で学んだとき、指導教授から「修士では研究の入り口であり、研究のやり方を学んだだけ。一人で研究ができるようになるには次（博士課程）へ進むべき」といわれました。本学の大学院には、看護実践系の教員もいれば、人間科学や健康科学など基礎科学系の指導に長けている教員もいて、様々な専門分野をもつ方々が共同して教育研究指導ができる場所が強みだと思います。

### 看護とは何か、高らかに発信できる大学院へ

**小林** これからの大学院の在り方について、次の世代へのメッセージという形でご意見ををお願いします。

**川島** 本学が「看護」を大きく謳う単科大学であることをとても大切に思っていてやってきました。看護学を学ぶ拠点として、看護とは何か、看護学を発展させるとはどういうことなのか、看護学をひとつの学問体系として発展させていくという気概を持ってほしいですね。

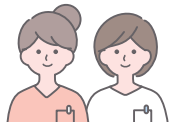
**牧野** 若いころは実験で客観的に明らかにすることが科学だと思っていたのですが、研究を続けていくうちに、人間は客観的に分析できないところもあると気づきました。そうした人間科学的な、人間を全体的にみる研究について教育できる先生が本学にはいると思います。二つの科学を大切に、協力しながら、看護とは何かを突き詰めていく大学院になってほしいと思います。

**小林** 大学院は学生が教員に一方的に教えてもらうというよりは、学生と教員と一緒に研究していくという面があります。大学院生と教員が共同して、看護実践に対して具体的な提案ができればいいですね。このような意欲を持った方にぜひ本学大学院を目指していただきたいと思っています。

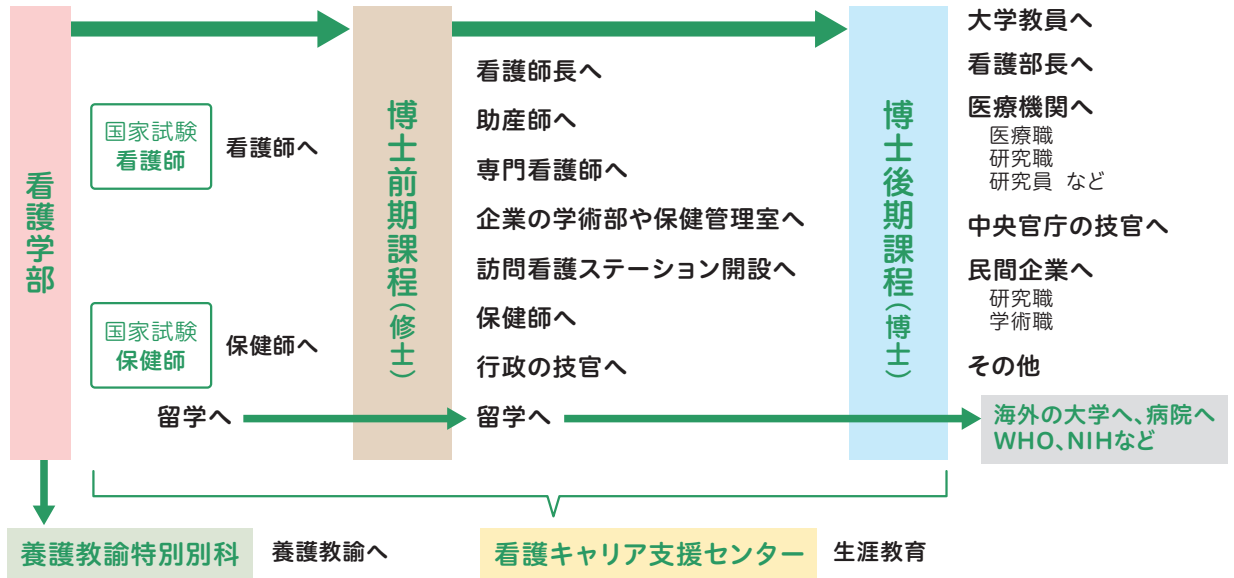


小林 宏光 教授

石川県立看護大学大学院看護学研究科には博士前期課程（修士）と博士後期課程（博士）があります。博士前期課程は健康看護学領域、実践看護学領域、助産看護学領域の3領域で構成され、さらに専門の分野に分けられています。領域により「研究コース」「専門看護師コース」「助産実践コース」の3コースがあり、研究者の育成、高度実践看護師の育成、助産師の養成を行っています。博士課程では、地域住民、患者も含めた広範な人々の健康の維持、増進、回復及び生活の質（quality of life）の改善に貢献すべく、看護学領域の講座が連携して、専門性の高い教育を行い、質の高い研究者を目指しています。



## 「なりたい自分」をサポートできる体制



## 私の大学院時代

本学大学院で学び、現在は教員として活躍している3名の先生にコメントをいただきました。



### 大学院での学びを振り返って

**今方 裕子 助教**  
(実践看護学領域 成人看護学分野  
がん看護専門看護師課程 修了)

私は、本学の大学院にがん看護専門看護師を目指して入学しました。大学院では、専門看護師に必要な6つの役割（実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究）について、講義や研究活動そして実習を通して学びました。大学院での学びは、がん看護専門看護師として患者さんやご家族へより質の高いケアを実践するための思考過程の基礎となる重要なものでした。教員となった現在は、学部生やがん看護専門看護師を目指す大学院生とともにがん患者さんに必要なケアをさらに探究しています。



### 大学院で得たもの

**瀧澤 理穂 助教**  
(実践看護学領域 成人看護学分野  
がん看護専門看護師課程 修了)

入学時、自分が最善だと思うケアについて、根拠に基づき論理的に説明できず、能力不足に落ち込みました。しかし指導教官や先生方から、内省し次に活かすことこそ大切だと教えて頂き、分からないことは恥ではなく始まりであると気づきました。そして当たり前だと思っていたことを疑い・問いを抱くことが、物事の本質に迫り、新しい発見や看護に活かされることを学びました。大学院を通して、苦労無くして成長はなく、壁にぶつかったときこそ飛躍のチャンスだと体感出来たことが私の大きな財産となりました。



### 私は「人」に恵まれている! はず

**小林 真依子 助教**  
(実践看護学領域 老年看護学分野  
老人看護専門看護師教育課程 修了)

「やっぱり専門看護師になりたい」と大学院進学を決意したのは看護師16年目。「あらまあ! 元気? 嬉しいわ!」と電話で歓迎してくれたのは川島先生でした。よっしゃ、やるぞと入学したものの、研究活動から離れすぎていた私が、なんとか修了できたのは、締め切りギリギリまで付き合ってくれた中道先生と老年ゼミの仲間たちのおかげです。大学院では、いろんな看護師経験を持った仲間と一緒に学ぶことができます。おかげで自分の看護師としての強みと課題にじっくり向き合うことができました。専門看護師を目指して、実践も研究もまだまだ挑戦です。



教授 今井 美和  
Miwa Imai

病理学

### ● PROFILE

石川県金沢市出身。金沢大学医学部卒業。金沢大学大学院病理系専攻修了後、病理医として金沢大学医学部附属病院や病理学講座などに勤務。2000年に本学に赴任し、現在に至る。

## 若年女性の子宮頸がん予防に関する研究

子宮頸がんの発生メカニズムに関する研究をしてきました。子宮頸がんの多くは、性的接触によるHPV（ヒトパピローマウイルス）の感染が原因で発生します。

子宮頸がんは一般的に20歳以上になると増え始めます。その予防として、日本では2009年12月からHPVワクチン（子宮頸がん予防ワクチン）の接種が開始されました。10代前半にこのワクチンを接種し、20歳から定期的に子宮頸がん検診を受診することで、ほとんどの子宮頸がんを予防できるようになったのです。

本学に赴任してから、子宮頸がん予防に着目した研究を始めました。20歳前後の若い女性は、子宮頸がんのことやその予防に関する知識が乏しく、子宮頸がん検診を受けようという意識が低いと感じています。そこで女子高校生向けに啓発活動を行いました。この活動を繰り返すことで、女子高校生の知識は徐々に定着し、子宮頸がん検診を受診しようという意識

が高まります。今年の4月には約9年ぶりにHPVワクチン接種の個別勧奨が再開されました。若い女性が自分ごととして考え予防行動がとれるように、改めてHPV感染の予防や子宮頸がん検診の啓発を推進していこうと思います。



自宅周辺の散歩です。おしゃれなカフェを見つけわくわくし、小学校で飼育しているウサギちゃんに癒やされています。写真は金沢駅西広場の池に咲く睡蓮、ふとカメラに収めてみました。



准教授 松本 勝  
Masaru Matsumoto

成人看護学、看護理工学

### ● PROFILE

石川県かほく市出身。2014年金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程修了、博士（保健学）。金沢大学医薬保健研究域保健学系助教、東京大学大学院医学系研究科特任講師を経て、2021年から現職。

## デジタルデバイスによる看護の新しいアセスメント技術・教育法の開発

近年では従来のフィジカルアセスメント（身体診察）に加えて、携帯型超音波診断（エコー）装置等を用いた「可視化」技術が看護師のアセスメントに多数使われるようになってきています。これらは、これまで見る・触る・聴く（聴診）等といった観察方法だけではわからなかった、患者さんの体内や体表の情報を視覚化できるため、看護師のアセスメント能力を著しく向上させることができます。今後在宅での看護のニーズが高まる日本では、高度な専門的知識をもつ人材が必要とされており、看護師によるデバイスを使ったアセスメントの習得は重要といえます。

これまでには主に排泄や褥瘡等を対象にしたアセスメント技術・デバイスの開発や効果検証を行い、エビデンスを蓄積してきましたが、現場の看護師への普及には至っていない状況です。そのため今後はこのエビデンス-プラクティスギャップを埋めるような、実装研究や普及研究

を行い、より多くの看護師にエビデンスのある技術が広がるような活動を進めていきたいと思っています。そこで重要なのは看護師が学びやすい教育ツールといえます。ICT（情報通信技術）はもちろんですが、Virtual Reality（仮想現実）やAugmented Reality（拡張現実）といったXR（Cross Reality）の技術も取り入れた最新の教育法を探索し、学内の教育にも取り入れていきたいと思っています。



実際に私も開発に関わった、携帯型エコー装置です。スマートフォン上で、そしてヘッドマウントディスプレイでは拡張現実として画像を確認できます。

## 新任教員紹介

今年、赴任した先生方です。  
よろしくお願いいたします。

①出身地 ②前任 ③現在の仕事内容 ④趣味



**美濃 由紀子** 精神看護学 教授

- ①岐阜県高山市
- ②東京医科歯科大学大学院
- ③精神看護学の学部講義・演習・実習と卒業研究を担当しています。研究テーマは、精神科身体合併症看護、司法精神看護です。何か聞きたいことなどありましたら、気軽に研究室にお越しください。
- ④温泉めぐり。



**峰松 健夫** 成人看護学 教授

- ①長崎県佐世保市
- ②東京大学大学院医学系研究科
- ③看護理工学を駆使して、皮膚や創傷のアセスメントを行うポイントオブケア技術の開発研究を行っています。また、1年生の情報処理学、2年生の保険統計学の他、英語購読、研究方法論、ビジュアル看護実践論(大学院)も一部を担当しています。
- ④乗馬(もう10年近く乗っていませんが)…。車の運転。



**日高 未希恵** 在宅看護学 講師

- ①宮崎県宮崎市
- ②東京医療保健大学
- ③地域で暮らす人々の社会的なつながりと健康との関連を研究しています。人口減少が進む中、「地域で自分が望む暮らしを続ける」、それを支えるものは何か?それが私の問いです。
- ④キャンプ。



**松澤 麻里** 看護キャリア支援センター 特任講師

- ①石川県金沢市
- ②(出向元) 石川県立中央病院
- ③感染管理認定看護師教育課程の専任教員として、感染管理認定看護師を目指す履修生が必要な知識や技術を習得するために、学びやすい環境を整えサポートをしています。
- ④旅行、韓国ドラマを観ること。



**大井 希美佳** 看護キャリア支援センター 特任講師

- ①石川県輪島市
- ②(出向元) 公立能登総合病院
- ③感染管理認定看護師教育課程の専任教員として、座学、学内での演習、臨地実習をサポートしております。
- ④北陸ミシュランガイドに出ているお店めぐり、全国各地に行くたび牛タン専門店を探してめぐることです。



**千田 明日香** 基礎看護学 助教

- ①石川県金沢市
- ②金沢医科大学看護学部
- ③基礎看護学で講義や演習、実習指導を通して学生が対象理解や日常生活援助、フィジカルアセスメントなど看護の基礎となる内容を学修できるよう支援しています。
- ④本屋めぐり、読書。



**小林 真依子** 老年看護学 助教

- ①秋田県三種町
- ②虎の門病院分院 看護師
- ③ただいま3年生の老年看護学実習に向けて準備・調整中です。オンライン授業も多く、学生の名前と顔がなかなか覚えられず苦戦しています。
- ④歌うことが好きですが、なかなか大きな声が出せないでゴロゴロしています。



**川俣 文乃** 精神看護学 助教

- ①埼玉県
- ②訪問看護ステーション
- ③精神看護学に関する講義・実習の運営に携わっています。人間関係とコミュニケーションに関心があり、援助関係論を基盤とした研究への取り組みを試みています。
- ④映画と音楽。



**加藤 克典** 基礎看護学 助手

- ①石川県金沢市
- ②金沢大学附属病院
- ③同じ領域の先生方と協力し、基礎看護学講座の授業をサポートしていきます。学生の皆さんと学びを深めるとともに、看護の魅力を伝えていきたいと思っています。
- ④音楽鑑賞・映画鑑賞、カラオケ(コロナが落ち着いたら行きたいです)。

## 第23回看大祭 ~全力笑顔!!!!~



10月22・23日に、3年ぶりに地域の方を招いて大学祭を開催しました。コロナ禍で閑散とした構内に寂しさを抱きながら通学していましたが、大学祭当日は多くの方が足を運んでくださり、活気あふれる大学の様子を見てとても嬉しくなりました。県看ドックや縁日など恒例の催しに加え、教員の研究&サークル紹介、俳優の羽田美智子さんを招いての特別講演会など新しい試みにもチャレンジすることができ、笑顔弾ける大学祭になったのではないかと思います。(2年生 寺田絢咲)

**第23回 石川県立看護大学 大学祭**  
2022年10月22(土) 10:00~16:00  
23(日) 9:00~12:00

イベントたくさん!  
学生 先生 職員  
イベント  
パワ...

食後の癒し 縁日模擬店!  
J&A 日におく 夜更かし  
お楽しみ会

特別講演会  
自分らしい人生の歩み方  
講師: 羽田美智子 (俳優)  
日時: 10月22(土) 14:00~15:30  
参加費無料

模擬店 22日(土)のみ開催  
・honey TEA  
・こころちゃんCafe  
・Life Crest

ステージプログラム  
10月22日 14:00~15:30  
特別講演会(講師: 羽田美智子)  
10月23日 10:00~ 野々谷明高(羽田 敬典)講演会  
11時~ 星越大学 バンド演奏

QRコード

石川県立看護大学 大学祭実行委員会  
Mail: kscn23@kscn.ac.jp



## EVENT

### 夏と秋にオープンキャンパスを開催！

今年ハイブリッド型(来場&WEB)でオープンキャンパスを開催しました。3年ぶりの開催となった来場型オープンキャンパスでは募集人数を超える申し込みがあり、大学説明会、模擬授業、キャンパスライフ紹介、構内ツアー、個別相談を行いました。参加者からは「モチベーションにつながった。」「在学生の話がたくさん聞けてよかった。」という声が聞かれました。WEBオープンキャンパスでは本学の魅力、在学生の夢、模擬講義などの動画をオンデマンドにて配信しました。



## TOPICS

### フィールド実習報告会

今年度のフィールド実習活動報告会(7月14日)では、フィールド実習に関わってくださった多くの地域の方々とZoom配信によって時間を共有し、リアルタイムで多くの意見を交わすことができました。1年生が参加するフィールド実習の魅力である、直接「地域」に出向くということは簡単ではありませんでしたが、SNSを利用した情報発信などの活動の様子が報告されました。実際に地域に出て学ぶという経験だけでなく、地域社会における「デジタル・テクノロジーによる生活の変化」に気づききっかけとなったのではないかと思います。



2022年度のフィールド実習で「フードロス削減」をテーマに「フードドライブ」に焦点を当てて活動した班の成果が、金沢市のホームページに掲載されました

## TOPICS

### 猿鬼歩こう走ろう健康大会に行ってきました！

能登町で3年ぶりに開催された「能登の里山里海」を体感できる「猿鬼歩こう走ろう健康大会」に1年生4名と2年生2名が参加しました。県立看護大学ブースでは血圧、骨密度、体組成、血管年齢の測定機器を用いて大会参加者や観客の健康チェックを行いました。老若男女問わず100名を超える多くの方々にご参加頂きました！大自然の中で地域の方々との関わりを深め、看護の知識も活かすことができました！(2年生 山下茉莉・八日市遥奈)



## 附属施設 INFORMATION

### 附属図書館

#### デジタルサイネージで最新情報発信

図書館の入り口の横にテレビが設置されていることに気づいたでしょうか。これはテレビではなくデジタルサイネージという電子掲示板です。デジタルサイネージって言葉は馴染みがないかもしれませんが、よく目にしますよね。図書館の開館時間や新着図書、利用可能な電子図書などの最新の情報を発信しています。教員の推薦図書の情報もありますので、ぜひ、確認してみてください。こんな情報があるといいなと思うことがあれば、ご意見をお寄せください。



### 地域ケア総合センター

#### 開学以来蓄積してきた、本学の教育・研究活動を地域社会へ還元

「人材育成」「地域連携・貢献」「国際貢献」の3本柱で今年度もさまざまな事業を企画しています。感染拡大予防に十分配慮し、人材育成事業として13事業、地域連携・貢献事業として11事業、国際貢献事業としては2事業がスタートしております。新しく「いしかわマネジメント塾」「多職種とともに考えるがん患者の事例検討会」「看護に活かすポケットエコーを一つ一つわかりやすく」「スマートウォーキング」等8事業が加わり、さらに充実した内容になっています。県民の皆様の健康・福祉の向上にお役に立つことができればうれしく思います。



### 看護キャリア支援センター

#### 感染管理認定看護師教育課程6期生

7月4日に42名の受講生を迎え、6期の感染管理認定看護師教育課程を開講しました。新型コロナウイルス感染症が流行している中、オンラインと対面を組み合わせたハイブリッド型授業を実施しております。受講生は、講義、科目試験、微生物検査の演習、臨地実習、自施設の感染管理プログラム作成、成果発表会等の多くの課題と取り組みながら学んでいます。感染管理は決して一人では行えません。受講生一人一人が切磋琢磨し、全員で最後まで走り抜き、感染管理認定看護師の資格取得を目指します。



# 日本老年看護学会 第27回学術集会を終えて

成人・老年看護学講座 川島和代

みなさま、こんにちは。老年看護学の川島です。大学での最期の年を迎えた私は、さる6月25日・26日の両日に成人・老年看護学講座のスタッフをはじめ、大学教員のみなさま、大学院の修了生・在学生のみなさま、北陸3県の老年看護学の仲間や老人看護専門看護師の方々に支えられて『日本老年看護学会第27回学術集会（WEB）』を開催させて頂くことができました。

テーマは「人生100年時代、ケアをデザインする～ Withコロナ時代の老年看護を問う～」といたしました。わが国の高齢者は世界の長命を得られるようになりましたが、長い老年期を本当に幸せを実感しながら生活されているのか問い直したいと思いました。ましてやコロナ禍のなか、人との接触が制限され、親しい人との面会もかなわない日々を過ごされている高齢患者さんたちも少なくはありません。人生の最終段階を生きる日々、どのような看護・介護職に出会えるかが高齢者の幸せを大きく左右するのではないかと思います。

健康な段階から看取りの時期まで、老年看護のケアをデザインするというコンセプトで教育・研究・実践家の方々の知見を通して、これからの時代の老年看護をご提案頂きました。当事者の意思を問い、尊重し、かかわる人たちの意識を変えるケアをデザインする力が必要だと実感しました。

WEB開催（一部LIVE、オンマンド配信あり）ではありましたが、参加登録者総数2,205名、企画への延べ参加者数は1万人を超えました。本当に感謝です。2つの特別講演、4つのシンポジウム、4つの教育講演、2つのグッドプラクティスセミナー、対談、市民公開講座等、どの企画からもこれからの老年看護学を豊かに発展させていくケアのヒントを頂くことができました。

本学の真田学長はじめ事務局・教職員のみなさま、学生・院生のみなさまから温かいエールを頂きました。これからは、教育や実践の場において学術集会で得た学びを少しでも活かし、出会った高齢者のみなさまにひとつずつお返ししていこうと思っています。ありがとうございました。



第27回学術集会 ご挨拶



第27回学術集会  
特別講演1座長



第27回学術集会ポスター



第27回学術集会  
企画委員会はすべてオンライン

第27回学術集会  
グッドプラクティスセミナー  
(討論、LIVE)

## 令和4年度 後期 キャンパススケジュール (予定)

冬季休業	12月22日(木)～1月4日(水)
卒業研究発表会	12月23日(金)
補講・試験	2月13日(月)～2月22日(水)

春季休業	2月23日(木)～
卒業式・学位授与式	3月18日(土)



## 石川県立看護大学グローバルはまなす基金



開学から20年が過ぎた今日、社会や家族の変化、医療経済の危機に対応した医療の再編が間近いことが聞こえてまいります。本学では今後ますます時代や地域にあった看護師・保健師・助産師を輩出する努力を重ねる所存です。そこで、学生・大学院生の国内外研修を推進する事業や、教育・研究活動において地域社会に貢献する事業を推進することを目的に、「グローバルはまなす基金」を設立しました。趣旨にご賛同いただける方からのご寄附をお待ちしております。

お申込み・お問合せ先（石川県立看護大学総務課）076-281-8300

